

1, 会長挨拶

9月3日に予定していた会が、コロナ禍で本日となりました。本日は、テーマを絞る話し合いをするよう、前回、人権ややまとの日、短歌に関わることもしてはどうかということが出ました。ひまわり畑が満開となり、市民の知る機会になったと思います。花火を上げる8月14日の花火が上がったのもうれしかった。やまとの日のあり方について、絞って話し合いたい。1時間半で終われるようにしましょう。

2, 活動交流

・昨年ひまわりを作るのは失敗で、大坪さんと一緒にやり直した。心が温かくなり、満開のひまわり畑になったのを子供も体験したので、さらに一工夫できるのではないかと期待している。市内、市外からも声をかけてもらい、8月写真を撮っている人が「噂を聞いてきた」とか、校長先生がラジオでも取り上げPRして波及した。声高では言えないが、ひまわりとひまわり宣言とリンクし、子供も自他を大切にすることを紐付けたい。笑顔でできる瞬間が、場面、場面であった。まだ聞こえていないことやよい方向があれば教えてほしい。

・「広報郡上」「中日新聞」等に取り上げられて、学校運営協議会と一緒にした、昼間で全員ではないが、紹介された。子供達も良かった。昨年から今年にかけて、大坪さんも学校運営協議会のメンバーとして、ある程度、清水と活動を引っ張った。子供の自分たちの活動としてやっていけそう。

もし、学校運営協議会、大和地域協議会の種をまき、色々と参加していただき、地域の交流ができていていると考えている。

・人権運営委員だが、小中学校の内から一つ、人権推進校を作っている。人権を広げていくように県などの支援をもらい、車椅子バスケットなどやっている。その一つで、花を咲かせる。人権で、ひまわりを咲かせるのは郡上だけ。推進校で育てたものを、次の推進校へつなぐ。その始まりが大和中。その時できたのが「ひまわり宣言」。大中小学校で、大和中からスタートしていることを紹介した。「広報部上」で取り上げられたので、広まっていくといい。嬉しく思った。

・ひまわりは5年ぐらい失敗していたが、やっと咲いた。その分、感動した。笑った生徒の顔で嬉しかった。地域協議会が、次は小学校もよく見える所でやってはどうかと。来年もここを元に進めたい。中学生が小学生に教え交流を深め、一緒のことをやるのが心に残る。大人になっても思い出してくれんかと思う。

・（花火について）西公民館の活動講座や教室ができなくて、4月、コロナに負けずにやっていこうとなった。8月14日の夏祭りがメインで、魚のつかみとり等を昼間やり、夜は「夢花火」をするつもりだった。しかし、飲食やふれあい等があるので、なしとしたが「花火あげようか」ということで、各家庭に一本ずつ配り、8月14日の同時刻（20時）にあげようということ、名古屋の店にメールでやり取りして、花火も売れないこともあ

り、格安の物で、各自治会から各家庭へ配った。8月14日の土砂降りでどうなるかと思っただが、あげるということであげた。ついでにたくさん花火を家庭でも買ってあげて良かったということだった。土砂降りでも上がって川辺から見てよかった。単発かもしれないが、他の公民館からも何故西公民館だけと言われた。

・夏祭りの予算でできたのですか。

・150円から200円の物が100円になって、350本。いつもより少ない予算でできた。

・朝礼で花火の取り組みを順番に話した時、西全体が一つの花火をあげたのは素晴らしいとのことであった。やまとが公民館全体で心一つにする。供養も含めて、ひまわりも、わいわい植えて嬉しかった。雨の中であげたのが、朝礼で出た時に、この会で出たのを思い出した。こうしてひとつのことをするのが良い。協力できると良い。

・昨年、「夢花火」はなかったが、ゲリラ花火とかぶるのではないかと思っただが、今年行った。そちらは8月15日に上がった。

・コロナ禍にあえてやったから良かった。

・災害もあり、コロナ復興なども込めてやりましょうということでやった。

・やまとの日のあり方について、もっとこうするとよいのではというところはないか。

・報告ですが、清水のまとめた資料で、自治会単位、自分の住んでいる地域の活動場所など掃除をすることが多かった。同時に交流したいという思いがある。平日なのでお年寄りが多いが、一緒に掃除したのが交流したとかコロナ禍や子供と地域の方と一緒に考えているところまで行かずにできなかった。しかし、上剣と福田は、自治会長との連絡で地域の方から、区長がシニアクラブでの方に呼びかけ、東氏が上剣で郡上について資料を集めてくれたり、福田では、昭和56年の集中豪雨で災害があった時の話をして防災教育につなげてくれたりして、地域ごとに特色ある関わり、地域ごとにそういう活動を、来年度以降、他の所でもできないか。平日だと仕事など活動が制限、どう進めると二つのようなことができるのか。今年は雷がなり、地域ごとに配慮されて、いつやるにしても、冬だと早く日が暮れて開催時期は難しい。

・時期、見通しがもちにくい。雨雷はどうか。職員は受け身の感じ。こちらが主体的になっていくのは、ハンカチを引っ張るように火がつけば良い。ここで熟議して、動きが早く取れば、交流してもより実りある活動ができるのではないか。今の子は素直でひたむき、一生懸命99%だが、学校目標の「自ら」には弱さがあると見ている。与えられたことには、やってよかったと感想があるが、活動内容は、掃除で貢献がメイン。しかし、マンネリ。場所は公民館。掃除管理ができています。他の活動のアイデアがあると熱が入ってくる。子供が目に見えて動くのは、地域の方も嬉しい。子供が外に出るのは誇りある。大和は山の方向に家があり、バス7台を小学校ややまびこ園との関わりで、バスの融通が難儀。次年度できる面白いこと。軽スポーツ、ペタンクやゲートボール、あまり触れない少ない機会のものができる場もあり、「やりたい」という声も。面白そうだと思う。職員も「よしやるぞ」ともっていきたい。今後に期待。

- ・今後の「自ら」「主体性」の弱さについてはどうか。
- ・大和庁舎は、一緒に掃除ができない状態。職員が外に出ていた。交流も少ない。子供も一緒に掃除したい。話しかけるが、初めての人なので難しい。掃除ばかりではなく、「ここは食堂だよ」「ここは会議する場所です」。「こんなところがあるんや」と掃除だけでなく、職場体験ではないが、「こんなことしているよ」「市役所はこんなことしてるのだ」と分かって交流しやすいのではないかと。もうちょっと何かあると良い。庁舎に来た子に申し訳なかった。
- ・掃除しながらでは難しい。
- ・職員にも話してみる。思い切って運動会や合唱祭を、土日にもすることもあったので、土日に職員も参加して、おじいちゃん、おばあちゃん、小学生、幼稚園児。幅広い世代で交流できないかと話している。公民館、自治会の皆さんと考えていくと、大人の考えを伝えてもよいが、自主的に動くよう知恵を絞っていくようにしたい。どの場で公民館の方と話をすることができるか。
- ・中心となっているのはどこか。
- ・生徒会
- ・トップは生徒会長。小学校の閉校について考えている。自分の小学校に行って掃除したいと思っている。
- ・中学生がどんな思いをもっているか。木島さんは、自分たちでやりたいが毎年やっているの、どんな風にやっている。本当のところはどうであるか。本当の声を聞きたい。
- ・公民館長会で、コミュニティスクールの話として、「やまとの日」のことを話していきたい。公民館のスタートに、中学生を派遣してほしい。夜の会議ではあるが、中学生が運営協議会。中学生に語ってほしい。その場はできるのか。中学校からできるとなれば、中学生も自分の言葉で言うと自分の願いになるので、そうならないかと。1, 2, 3年になると地域からの声や内容が変化するのではないかと期待している。
- ・公民館は中学生の思いを受け止めようと思っている。
- ・南の公民館は、コミュニティスクールに、中学生3人を入れとる。派遣してもらえんかと言われたから、お前行けということではない。地域から声をかけてもらえないか。
- ・生徒会の役員ではどうか。
- ・前期の生徒会で、八幡西中学校の相生の公民館でやってることは話をした。
- ・地域の活動に参加したい思いを聞きたい。砕けた感じで話せたらいい。
- ・先生の担当者と他の企業と組んで、小さいチームを作って焼き芋など決めていく。色々違うところで考えて決めていく。第一歩とする。塾などで夜も忙しい。学校に行って初めて話すと、何喋っていいかわからんし、話しても「はいわかりました」となる。子供の考えを聞いていくと、いろいろ活動になるのではないかと。2, 3年すると形が変わっていく。学校で、玉ねぎを来年のために、3年生が植える。3年生は食べれんけど、自分はそれし

か提案もできんけど、学校へ行き、顔を覚えてもらう。ひまわりおじさん。第1歩。何しようか迷うがやってみたい。

- ・学校に行くということだが、下校時刻の前なら時間はある。そのくらいに皆さんに集まってもらおうといい。

- ・公民館の考えはありがたい。子供に言っても反応は少なかったが、「やまとの日」をどういう風にやりたいのか。学校でもできるが、地域の方と話す経験をさせてやりたい。先生達も一生懸命動く。子供達も先生達の方が先に動くので、子供が地域の方と話すのが良い。やってほしい。

- ・地域の方と慣れると場慣れして心がほぐれる。初めは「はい」とか良い言葉だが、だんだん「こういうことをしたい」機会があればあるほど良い。ひまわりもそうだが、一緒にやる、話す、戯れる、アンテナをもってミーティングするのは良い。座談会みたいな感じ。

- ・たくさん機会はある。カローリング、ウォーキングなど参加してもらえば良い。中学生は忙しいという壁があって、働き掛けるのに遠慮がある。来るとドギマギする。シニア向けなので、来たら「どうしよう」と思う。地域の人と接触する部分はある。でも、その部分がある。全員そうではないよね。日曜をもて余している子もいる。地域の中で、ペタンクならできそう。

- ・中学生になると参加をしないという感じ。毎年やっていた。でも、小学生まで来ていても中学生になると来ない。お互いに慣れるといい。中学生と話すとき色々考えがあっっている。青少年育成のしゃべり場。中高生に来てもらうと、初めは固い。そういう場をもつのはいいか。

- ・本当に良いと思うが、そんなことまでできない人もいる。これは掃除から始まった。今回初めてなのに、こうして聞くと、理想論はあっても良いが、具体的に「やまとの日」をどうするか。自主的がない。会話もなすだけ。地域ごとに集まって、地域ごとに集まっている。徳永なら徳永で、何をやるか話そうかという機会をもたないといけない。しめ縄など年寄りももう作らない。「やまとの日」で掃除して、何か他のことをやろうかと思いつけていく。それなりに「『やまとの日』はこうですよ」となり、大人が流されていくこともある。夜でも昼でも、地域ごとに前から準備して前からやっていくと違うものができるかもしれない。やっていく中で違うものに、地域一つか二つか。ひいては、大和中か地域と同じように準備。「やまとの日」何するかというのを作っていくと良い。全体が全体でやってもいいが、地域で準備期間があるといい。

- ・それはありがたい。区民運動会も中学代表を選んで話して、どんなことができるか決まるといい。「やまとの日」だけでなく、教室でなく、他の所で地域の人と意見交換するのは良い。

・夏祭りもそうしていくといい。まずこの「やまとの日」から巻き込んで、中学生とそういう場をもつといい。何か決めて、決めないと。決めたことから展開するので決めないと。

・学校担当としているが、この地区のリーダーとして位置付いている。この地区のリーダーや核になるポストを与えていくことができる。分団長のように「やまとの日」の地区ごとにやるのか。今年度の活動は、令和3年度で決まったので、早いうちに決まっていれば可能だと思う。

・リーダーのその子が集まって、声をかけ、その場でどうしようかと話していく。

・そのリーダーは、どう決まる。ある程度、自主的な中で決まるということですね。

・子供たちが、一方的に進めると「はい」となる。その一歩として、生徒会を中心にしていくのも一つ。子供達から新しい考えも出るのではないか。参加する子がいても良いのでは。

・多くの子に話を聞きたい。「スポーツが得意でなくても参加したい」。そうすると、リーダーだけでなく、多くの子に出て欲しいと思う。

・子供に投げかけ、やりたくなければやめればいい。「やりたい」という願いがないと、言ってくれないと進まない。「やらなくてもいい」と言うならやめる。

・そうになってしまうならそれは大人のせい。大人が責任を感じていくことが大切。ひまわりおじさんがいい。尖った人がいい。川辺、八幡の島出身。高尾歌舞伎を幼い頃からやり、強制的にやったが自分事になり、「絶やしてはいけない」それを意識してやる。やりたいようにしていくと良い。

・何でも「自主的に」なんて難しい。ある程度、引っ張らないと。いろいろ、剣道などもまずやらされるといところから。最初のきっかけは、そういうところから。

・全くやったことないことやで、絶対嫌かと言うとそうではない。大人や教員、地域の人と喋る。来年の「やまとの日」のことを、生徒会やその他の子も、「コミュニティスクールで話が出たので、いついつやってみるか、どうや」と子どもたにまず聞いて、「なぜ迷うの。もしこうするとみんなどう思う」強制でもないし、こちらの話もすると良い。

・子供たちがその気になるようにしていく。互いにしていく。

・地域の方と話す「地域の人と、何々の話をした」ということを書いてくる。話すとその気になってくる。

・そろそろ時間。ある程度出てきた。具体的なことなかったか、言い足りないことはないですか。良いですか。

・回を重ねるごとにいろいろ決まっていく。子供に連絡を取り、10人位を4班くらいに分け、この会の人も入る。司会や書記を子供に任せる。徐々に子供がしゃべりだす。私見を入れて話すようになる。大人は魅力的なところを見せ、「このおじさんについていくと面白かった。ほめてもらえた。」信頼関係をつくる。まず今年は、仕込む。回を重ねて、今年は仕込み、自治会の祭りはどうか考える子を育てると、高校でも大学を卒業しても頼

ってくる。就職どうしたら入れる。濃密な時を過ごし、ボランティアなど種をまいてやる。愛情、故郷への誇り。そう思えるのが、1回のことです。うまくいったかどうかでなく、神社の事、花火のことをしてもらうのも一つの行事となる。

掃除も「その便利な道具を貸してくれ」でなくて、知恵、甲斐しょを作る。そういう中で「ひまわりおじさん」たちとどうか。きっかけを作る。我々が学校に行くのか。子供の声を聞くのか。子供から引き出す。小グループにしてやりたいと思うようにもっていく。重ねて花を咲かせる。会を重ねると協議会が熟するのではないか。ゴミをはいて、ほうきで「やってます」でなくて、何かを体験してもらうなども考えてすると大人も良い。子供との接点、協会との接点、仕込んで種をまき、花が咲いて、花火も含めて「やまとの日」となり成長あるのではないか。大人が焦って、10人出しましたでなく、グループ別に、レストランでも話をして、十数年前から青少年育成をして、今が中枢となり、頑張ってる人もいる。あの大人の姿を見たい。社会で輝くお子さん、大人になるよう、いい時間を過ごしていくと思います。一時間半と決めたので、話を切って申し訳ないです。ありがとうございました。

・是非とも実現しましょう。

次回の会について11月19日(金)